

視点

「逆輸入」と言う言葉がある。日本ではあまり注目を浴びていなかった製品や歌手などが、海外で高評価を得て、そのことにより国内でも話題となることだ。

私の甘楽町移住も逆輸入的な縁が運んできてくれた。青年海外協力隊の赴任国のホンジュラスで、甘楽富岡地域で研修を受けたホンジュラス人に出会ったのだ。京都で生まれ育ち、群馬や農村地域になじみを持たなかった私に対し、彼らは「何で君は日本人なのにカンラのことを知らないんだ！」と驚き、自然豊かな美しい風景や、温かい人々、現在に至るまでの連続とした農業や地域振興の経験・知恵など甘楽町のスゴイところを熱く語ってくれた。そして日本ファンのホンジュラス人として、私の良き相談相手になってくれた。いつしか私は「カンラに行ってみよう！」と思うようになり、帰国後1年越しに移住がかなった。

海外経験は、個人にとっても日本にとってもプラスになる。単に外国語を話せるようになるとか、世界の出来事を知れるということだけではない。海外に出ると誰でも「生きる術」を持たない赤ん坊のようになる。生活するために、多くのことを周囲の人たちに助けてもらいながら、その土

し、その中でたくましく柔軟性を鍛えられる。いろいろな人生に触れることで他者の

地の習慣や文化を知り、異なる価値観とぶつかったり、自分ではコントロールできない事象と対面



甘楽町天引

もり えりこ
森 栄梨子

NPO法人自然塾寺子屋海外事業部

海外で知る農村の価値

者の自分にとってできることは何か、失敗を重ねながら地道に活動が続ける。こうした教科書では教えてくれない経験こそが、今後の日本を支える基盤になると感じる。

同時に、海外に出ると日本を語れない自分がいることに気づかされる。日本の農村にこそ素晴らしい経験や生活が残っていることを発見し、自然を上手に利用しながら厳しい時代を生き抜いてきたおじいちゃん、おばあちゃんたちってかっこいいと心底思うようになるのだ。そんな本物の知恵や経験が根付く農村を守り、受け継ぎたいし、海外体験を国内に還元させ、地域の経験と知恵を世界へ広げたいと思うようになる。

甘楽富岡地域には、私のように海外を経験して移住した若者が10人近くいる。それぞれ専業農家や看護師、養蚕修業、農業体験・食育プログラム、「ていねいな暮らし」の推奨、群馬の物産紹介、海外からの研修のコーディネートなどに挑戦している。人口1万4千人の町では、一人一人が主人公になれる気がする。国際交流を始めて32年になるこの町には、外部者を快く受け入れてくれる温かい心がある。今度はわれわれ外国経由組が地域を盛り上げていく番だ。

気持ちに敏感になれる。

現地の人に育ててもらいながら、一緒に汗をかき、常にフィールドに出て現場の大切さを身をもって教わる。よそ

地域に移り住む若者

【略歴】京都府出身。嵯峨野高卒業後、米国留学。国際交流に携わり、ホンジュラスで青年海外協力隊員を務めた。2014年から現職。県と甘楽町の地方創生懇話会委員。